

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 42 (当初計画 : No. 42)

東北森林管理局

取組名	アカマツ林における森林施業の技術交流 (継続)
流域名	久慈・閉伊川流域 (久慈)
分類番号	ウー 17、オー 20
実施箇所及び実施日	久慈市宇部町三崎山国有林 95 林班及び署会議室 (平成 26 年 1 月 16 日 (木))
取組の背景及び必要性	久慈地方には天然アカマツとして名高い「侍浜マツ」が生育しており、南部アカマツ振興センターにおいては「アカマツの復権とブランド強化」の取組が開始されている。当支署管内に占めるアカマツ人工林の割合も高いことから、地域関係団体と連携を深めながら、森林施業の技術交流により地域の森林資源の活用と産業の活性化等に繋げる必要がある。
取組の内容	<p>【これまでの取組内容】</p> <p>南部アカマツ振興センターにおいては主に製材加工分野における取り組みとして工場視察等の先進地見学が実施されており、当支署においてはアカマツ人工林施業として、伐採現場での森林整備技術交流会を実施。</p> <p>【平成 25 年度の取組内容】</p> <p>南部アカマツ振興センターと連携を図り、利用状況や販売・需要等について関係者間で情報交換を行い、採材検証による有利販売の手法検討や今後の施業展開に向けた意見交換を実施。</p>
国有林担当部局・役割	三陸北部森林管理署久慈支署 (企画、案内、実行)
連携協働相手先・役割	南部アカマツ振興センター、県・市町村、林業事業者等 (協力、会員への周知、講師)
取組の結果、反響、今後の課題等	平成 25 年度の交流会では 30 名が参加。参加者からは現在の状況や販売経験など、率直な意見が出された。今後はバイオマス需要も見込まれることから、未利用材の活用としての端材の集荷手法の確立や民有林施業の推進について、南部アカマツ振興センターと連携して進めていく必要がある。
PR の実施状況及びその期待する効果	県や市町村などの各自治体や請負事業者、販売・製材加工業者等、広く参加呼びかけを行うことで、地域の課題として林業関係者が一体となって取り組みを推進するものである。

【参考資料】

タイトル

第2回アカマツ人工林森林施業技術交流会（継続）



参加者による採材検討



単木毎の欠点を踏まえた採材方法の確認



造材結果を踏まえ検証



断面から見る採材検証



意見交換の様子



地元製材業者の意見

平成 25 年度 流域管理の取組結果表

No. 43 (当初計画 : No. 43)

東北森林管理局

取組名	地元自然保護団体主催の森林観察及び森林教室への協力(継続)
流域名	久慈・閉伊川流域(久慈)
分類番号	カ-32
実施箇所及び実施日	久慈市山形町豊口国有林外(春)平成25年6月9日(日) 岩泉町大坂本国有林外(秋)平成25年10月18日(金)
取組の背景及び必要性	地元自然保護団体から、川の上流部にある森林について観察・学習したいとの要望があり、下流域の住民に森林・林業を理解してもらう上で極めて有意義なことと考え、平成7年度から毎年実施。
取組の内容	<p>【これまでの取組内容】 その年の要望にあわせ、開催場所やテーマ等を決定し資料を作成、講師を派遣して森林教室等を実施。</p> <p>【平成25年度の取組内容】 春と秋にツアーを開催。過去に植樹体験活動を行った場所のその後の生育観察や巨樹古木を巡り歴史探訪を行った。</p>
国有林担当部局・役割	三陸北部森林管理署久慈支署 (企画、引率、講師)
連携協働相手先・役割	「くじ・川の会」 (企画、募集)
取組の結果、反響、今後の課題等	春の開催約30名、秋の開催約20名。毎年楽しみにしている参加者もあり、自分達が植栽した広葉樹の生長を見て自然の回復力に驚く場面も。 今後の開催にあたっては、団体会員の高齢化により実施内容が限られてきたこと並びに開催場所も併せて限られてきたこと等が課題となっており、内容について検討が必要である。
PRの実施状況及びその期待する効果	川の会の活動は幾度か新聞に掲載され、国有林のPRにもなっている。活動事例として詳しく掲載されれば、広く一般に国有林の果たしている役割を知ってもらう機会となる。

【参考資料】

タイトル

地元自然保護団体主催の森林観察及び森林教室への協力(継続)



植栽箇所の成長観察〈春〉



巨木の径級を確認〈秋〉



植物の説明風景〈春〉



古木の説明風景〈秋〉